

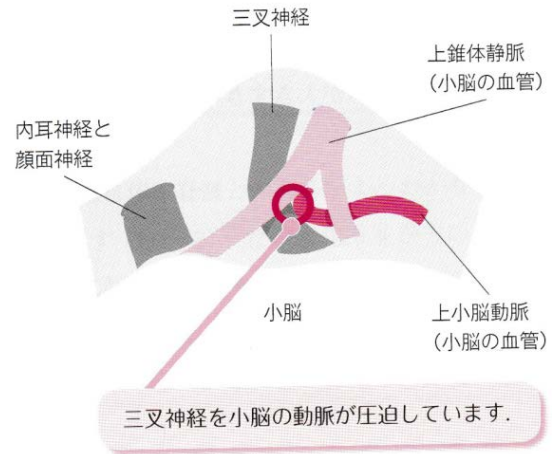
三叉神経痛とは

三叉神経痛は、三叉神経が圧迫されることによって生じる病気です。
この病気により、次のような病態または症状がみられます。

病態または症状：ほほ、あごの痛み

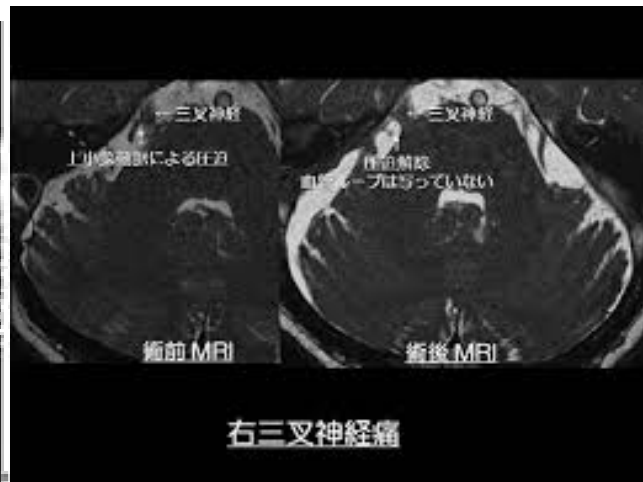
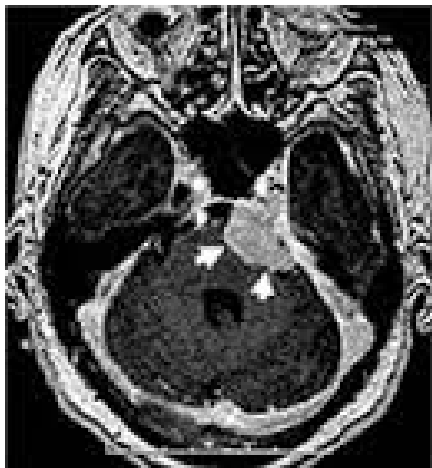


三叉神経痛の症状



三叉神経痛の原因

画像診断例



腫瘍による圧迫

微小血管減圧術とは

この病気は、鋭く電気が走るような発作性の激しい顔の痛みが数秒から数分間続くのが特徴です。食事、会話、歯磨きや洗顔、冷風にあたることなどで症状が誘発される

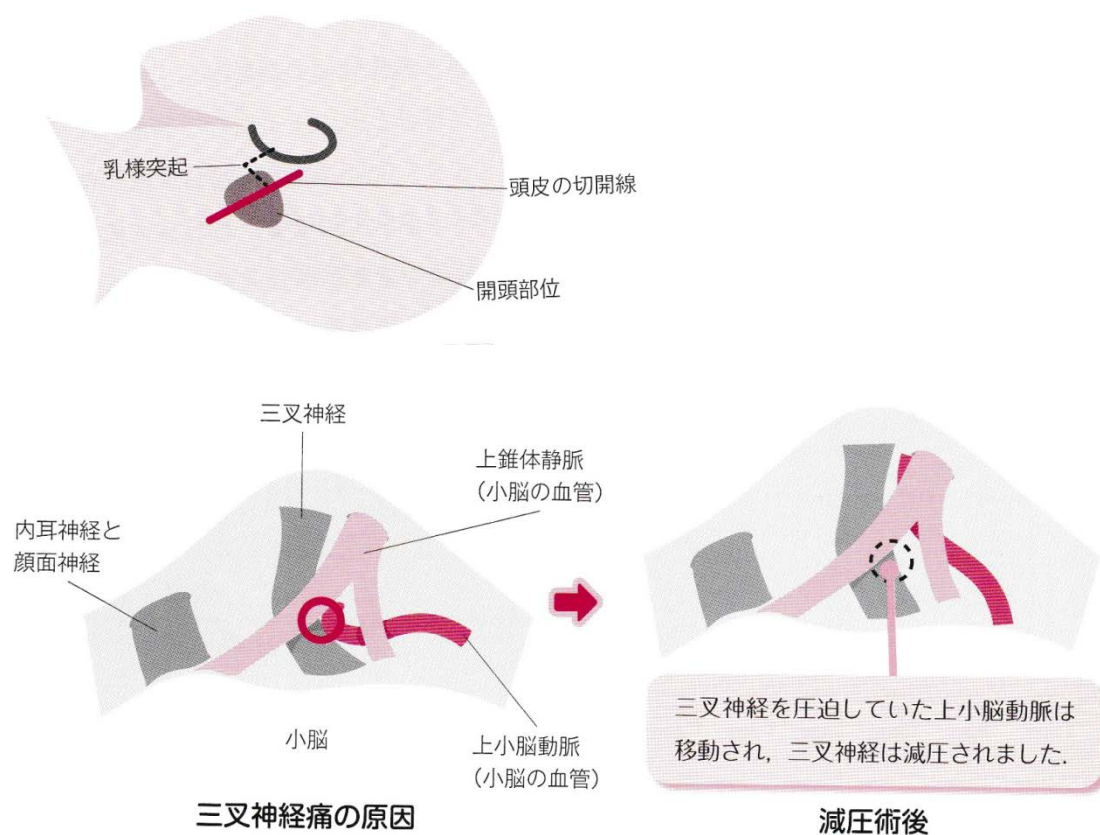
ことが多いです。中高年の女性に多く、その多くは脳の血管による圧迫が原因となっています。圧迫により神経が過敏となるため、痛みが出現します。この病気自体は、生命にかかわるものではありません。それゆえ、放置してもまったく差し支えないものです。

ただ、自分の意思とは関わりなく激しい痛みが襲ってくるため、精神的な苦痛を伴います。仕事や家事に差し障ることもあります。運転のときに痛みが出現すると事故を起こしそうになることもあります。

上記のような精神的な苦痛や社会生活上の不便等を取り除きたいと考えるのであれば、積極的に治療を行うことが必要になります。

この手術は、血管を移動して神経の圧迫を解除することを目的としています。この手術によって、症状の改善が期待されます。この手術を受けた患者さんのうち 80-90%以上の方に症状の改善が認められたとする報告があります。手術直後から症状の改善を感じられる方が多いといえますが、改善の仕方は一様ではありません。

耳の後ろの皮膚を切開して、頭蓋骨に約500円硬貨程の小さな穴を開けます。更に脳や神経を保護しながら操作を進めます。三叉神経を圧迫する血管を剥離して移動させ、神経から離れた位置にスポンジ、接着剤（フィブリン糊）またはテープで固定します。その後、硬膜を閉鎖して、骨欠損部はチタン製の人工骨で補填し皮膚を縫合して終了します。



三叉神経痛に対しては、この手術の他に、以下の治療法もあります。よくご確認いただいた上で、この手術を選択するかどうか判断してください。

1) 抗てんかん剤による薬物治療

三叉神経痛は内服薬がよく効く病気の一つです。

カルバマゼピン（商品名、テグレトール®）というお薬で、8割以上の人で一時的には痛みが消失あるいは相当改善します。これはてんかんのお薬ですが、神経の伝達を押さえる、ということで痛みの情報が神経に走るのを押さえて、痛みを軽くします。バクロフェンというお薬もかなり有効です。このほかにバルプロ酸ナトリウム、フェニトインというお薬も時に有効です。バルプロ酸ナトリウムとフェニトインも、てんかんのお薬です。しかし、カルバマゼピン以外は、効果には個人差があります。お薬の治療では、時に副作用が問題になります。ふらつきや眠気などの副作用がときに出ます。ふらつきや眠気は多くの場合、4-5日以内服していると体がなれて楽になってきますが、どうしてもつらい時は主治医の先生とよく相談して、お薬の量や飲み方を工夫する必要があります。またお薬の副作用で、肝臓の機能がわるくなることがまれにありますので、血液検査をときどきする必要があります。皮膚に発疹が出た場合も、お薬による薬疹のことがありますので、すぐに主治医の先生に相談する必要があります。

2) ガンマーナイフ（定位放射線治療）

三叉神経に集中的に放射線を当てる治療で 60-80%の有効率が報告されています。現時点では保険適応外の治療法です。

不明点や不安に思われることはぜひご家族や医師とよくご相談いただいて、安心して治療をお受けください。